

1 建て替えの必要性

- 施設・設備の老朽化と過大な維持管理コスト（建設後44年経過等）
- 医療機能の高度化等への対応の遅れ（手術室や外来、放射線検査のスペース不足等）
- 患者療養環境の不備（結核感染症患者と一般患者の動線同一による感染のリスク、個室不足等）

2-1 新病院が目指す姿

呼吸器、アレルギー、結核・感染症医療の分野で、先導的かつ中核的な役割を担う拠点病院

地域の医療を支え、住民や医療機関から頼りにされる南河内地域の拠点病院

2-2 医療機能の方向性

① 先進性、専門性を発揮した政策医療の推進

具体的な機能：結核医療の拠点機能、難治性呼吸器疾患・肺がん医療（がん診療拠点病院）、難治性アレルギー疾患医療、感染症機能（エイズ、SARS、新型インフルエンザ等）等

② 結核・感染症、呼吸器疾患治療における併発症への対応

具体的な機能：呼吸器疾患との併発症が多い疾患医療（循環器疾患、消化器系疾患）

③ センターの高度専門性を活かした地域医療への貢献

具体的な機能：救急医療、呼吸器疾患の在宅医療の後方支援機能、周産期部門、乳腺部門、眼科部門、小児部門、病理診断、地域医療支援病院

2-3 整備にあたっての基本方針(コンセプト)

高度専門医療のより一層の充実（「はびきの」ブランドの発信）	患者の療養環境の向上	地域医療機関との連携・支援機能の強化	安全で、働きやすい職場環境の整備	柔軟性があり、経営改善の観点も踏まえた施設整備
-------------------------------	------------	--------------------	------------------	-------------------------

2-4 新病院の病床数及び診療科

項目	内容
病床数	405床（一般病床、第2種感染症病床、結核病床）
診療科（23科）	呼吸器内科、肺腫瘍内科、呼吸器外科、感染症内科、アレルギー内科、小児科、皮膚科、眼科、循環器内科、消化器外科、乳腺外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、消化器内科（新設）、放射線科、歯科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科、臨床検査科、集中治療科、外来化学療法科、呼吸器内視鏡内科

<収支見込> ※平成29年7月時点

（単位：億円）

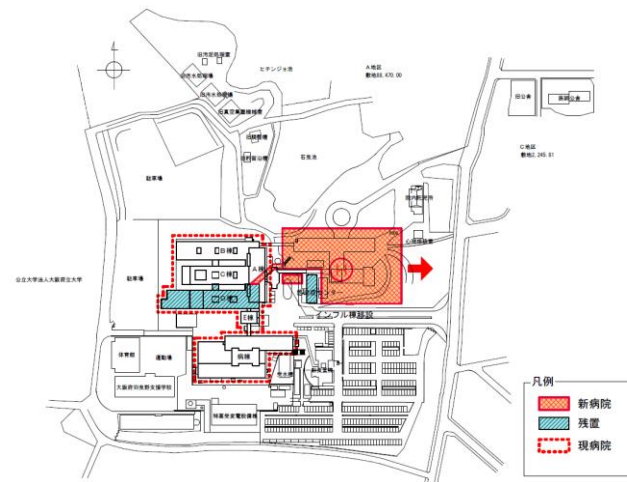
呼吸器C単体	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39
収入合計	97.8	98.0	100.4	104.2	98.6	238.6	110.1	105.2	105.2	105.2	105.2	104.0
うち営業収益	88.4	92.8	95.6	95.3	95.2	92.6	94.8	97.1	97.1	97.1	97.1	97.1
うち資本収入	8.4	4.3	3.8	8.0	2.5	145.1	13.3	6.0	6.0	6.1	6.2	5.0
支出合計	98.4	97.9	98.5	101.9	96.5	238.5	111.5	104.8	104.9	104.9	105.0	102.5
うち営業費用	87.9	91.2	92.2	91.9	91.9	91.5	91.3	91.7	91.7	91.7	91.7	91.7
うち資本支出	10.2	6.5	6.1	9.8	4.3	146.8	17.8	10.6	10.8	11.0	11.1	8.8
資金収支	▲0.6	0.1	1.8	2.3	2.1	0.1	▲1.4	0.3	0.3	0.3	0.3	1.5
（借入金償還負担）	1.7	2.1	1.4	1.9	1.9	1.7	4.5	4.7	4.8	4.8	4.9	3.8

3 施設整備計画の概要

部門	内容
外来	・消化器内科の増、化学療法の外来化等を考慮した規模を確保 外来患者数 650人/日（H28：608人/日）・外来化学療法 20床（現行 10床） ・ブロック化を進め、人員配置やスペースを効率化
病棟	・1フロア原則2病棟、1病棟当たり概ね44病床 ・個室は一般病床の30%程度（現行28%）結核・産科・小児科は個室率を高める
手術	・手術室は1室増の6室整備し、ハイブリット手術室の採用を検討 ・手術室は狭隘化を改善し、どの術式にも対応できる施設とする
その他	・災害対応として免震構造を採用し、災害時の患者受入れ設備を整備 ・感染症外来棟、感染症センターの建物は引き続き活用 ・既存の医療機器は可能な限り継続利用 ・一部敷地の売却又は賃貸による収益確保を検討

4 建設計画

① 配置案



③ 建物断面イメージ

屋上	機械
8階	病棟・リハビリ
7階	病棟
6階	病棟
5階	病棟
4階	病棟・NICU・分娩
3階	管理部門、手術室、中材、ICU・HCU
2階	外来、病理、外来化学療法、検体・生理検査、内視鏡
1階	外来（受付、会計等）、薬剤、救急、放射線
B1階	SPD（倉庫）、搬入ヤード、給食、リネン、霊安・解剖、供給

② 新病院の規模及び概算事業費

項目	内容	
建物延べ床面積	33,461㎡	
概算事業費	工事費	約 130.5億円
	設計費等	約 6.5億円
	撤去費	約 9.0億円
	医療機器	約 10.0億円
合計	約 156.0億円	

④ 部門別延床面積比較

部門	現病院	新病院	増減要因
外来部門	2,154㎡	2,575㎡	消化器内科等の増、外来化学療法室の拡大
病棟部門	8,143㎡	7,926㎡	病室・ナースステーションの狭隘化の解消、個室の確保
診療部門	3,907㎡	4,641㎡	手術室の増、放射線部門等の狭隘化の解消
その他	21,365㎡	18,319㎡	共用スペース・管理部門の縮小、医局の大部屋化
合計	35,569㎡	33,461㎡	

※ 現病院の延床面積は、使用している部分の延床面積に限る

※平成29年7月時点。概算費用であり、今後変動する可能性がある

5 整備手法及びスケジュール ※今後、大阪府の予算により決定する

整備手法については、事業者の創意工夫の促しやすさ、整備スケジュールの早期化、建設コスト縮減などの観点から、デザインビルド方式とする。

30年度：基本設計、31年度：実施設計、32～33年度：工事 → 34年度中：開院を目指す